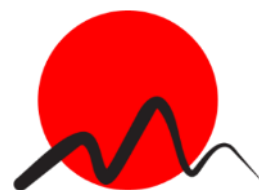


Slovenia Monthly July 2017

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2017年8月7日



～7月の主なポイント～

- 政治：** エリヤヴェツ外相、V4外相会合に出席し、西バルカンへのEU拡大プロセスの重要性を強調。ロシア兵捕虜追悼式典が執り行われ、ニキフォロフ・ロシア通信メディア大臣が出席。スロベニア・クロアチア国境画定問題に関し、スロベニアはPCAによる最終裁定の履行を主張。
- 経済：** 国家予算、2017年の上半期で約6千万ユーロの黒字を記録。スロベニア、EUの「欧州2020」開発目標の達成に向けて順調に進捗。
- 社会：** ブナの森林保護区域2か所が世界自然遺産に登録。ツール・ド・フランスで、スロベニア選手が初の1位獲得。

政治

【内政】

●グリス委員長、対イタリア国境措置を要請【7日】

7日、グリス国会情報機関監視委員会委員長(矢頭民主党(SDS))は、オーストリアがブレンナー峠の対イタリア国境において国境審査の導入を発表したことを受け、政府に対し、移民及びイタリア政府に明確なシグナルを送るために、速やかに対イタリア国境で予防措置をとるよう要請した。同委員長は、毎日数千人、時には1万人に上る移民が海を渡ってイタリアに到来しているとして、「オーストリアは対スロベニア国境で審査を既に導入しており、ハンガリーは難民を受け入れていない。クロアチアに行きたい難民もおらず、そもそもクロアチアは受け入れていない。したがって、スロベニアが難民ポケットとなることが最悪の可能性として存在する」旨述べた。

【外政】

●「世界蜂の日」、FAO総会で全会一致で支持【5日】

5日、国連食糧農業機関(FAO)総会において、スロベニアが提案している「世界蜂の日」の創設が全会一致で支持された。創設のためには、本年12月の国連総

会の会合でのエンドースが必要となる。同会合に出席し、スピーチを行ったジダン副首相兼農林食糧大臣は、「5月20日を『世界蜂の日』と定めるスロベニアのイニシアティブは95%の確立で成功するであろう。ミツバチと養蜂はスロベニアが超大国と自称できる分野の一つである」と述べた。スロベニア政府は、養蜂の父であり、近代養蜂を世界に知らしめた最初の人物と言われるアントン・ヤンシャ(Anton Jansa)の誕生日である5月20日を「世界蜂の日」に制定することを目指している。

●パホル大統領、三海域首脳会談出席【6日】

6日、パホル大統領はワルシャワで開催中の三海域協力首脳会談に出席し、環大西洋関係のパネルにおいてスピーチを行った。同大統領は、スロベニアはEU及びNATOの活発なメンバーであり、ロシアと特別な関係を有している訳ではないが、二国間関係は良好であるとした上で、これまでの二回のプーチン・ロシア大統領との会談を通じ、西側とロシアとの対話が、現在の外交安全保障政策の唯一の平和的及び良好な代替手段であるとの考えを示した。

●パホル大統領、トランプ米大統領と会談【6日】

6日、パホル大統領は、三海域協力首脳会談のマージンにおいて、トランプ米大統領と会談した。大統領府

の発表によれば、パホル大統領によるトランプ大統領夫妻に対するスロベニア訪問招請について、同大統領が好意を持って(with fondness)招待に応じたいと述べた。



(Photo: Nebojša Tejić/STA)

● 本年農業見本市のパートナー国に中国【10日】

10日、スロベニア通信(STA)によれば、中国が、本年8月末にゴルニャ・ラドゴナ市で開催予定の農業見本市「Agra」のパートナー国となり、スロベニア政府主催で「16+1」の枠組みの下で、農業分野のフォーラムが開催される予定である。主催者は、中国の農業・食品会社の参加がネットワーキングを通じてビジネスの機会を提供し得ると述べた。(当館注:開催予定日は、8月26日～31日。)

● エリヤヴェツ外相、V4外相会合に出席【11日】

10日、V4外相会合に出席したエリヤヴェツ外相は、西バルカン方面へのEU拡大プロセス継続の重要性を強調し、西バルカン地域の欧州・大西洋体制への統合は、同地域の安定の保障となると述べた。また、同大臣は、経済改革及び国際法の遵守を含む、法の支配の尊重は、地域協力及び統合プロセスにおける友好善隣関係の促進に資するとして、スロベニア・クロアチア国境画定にかかる常設仲裁裁判所の最終裁定は履行されなければならない等の考えを示した。

● エリヤヴェツ外相、ハンガリー外相と会談【10日】

11日、エリヤヴェツ外相は、G4外相会合の-marginでシーヤルトー・ハンガリー外相と会談し、二国間関係、貿易拡大等につき意見交換を行った。両外相は、二国間関係は極めて良好で、政治問題もないとして、経済関係の強化の重要性を強調し、コペル港の開発及び第二路線の建設を含む交通・エネルギーインフラ分

野で両国が共通の利益を有しているという認識で一致した。

● ツェラル首相、セルビア首相及びマケドニア首相と会談【13日】

13日、ツェラル首相は、トリエステで開催されたベルリン・プロセス首脳会談の-marginでブルナビッチ・セルビア首相及びザエフ・マケドニア首相と会談した。ブルナビッチ首相との会談で、同首相は、「セルビアはスロベニアにとっての重要なビジネスパートナーであり、地域における政治面でのカウンターパートであると共に、緊密な同盟国としてEU加盟を支持している」とした。ザエフ首相との会談においては、同首相は、スロベニアはマケドニアのEU及びNATO加盟に対する強力な支持を約束し、来年にもマケドニアは加盟交渉を開始出来ることを期待する旨述べた。

● パホル大統領、中国科学院院長と会談【14日】

14日、パホル大統領は、スロベニアを訪問した白春礼(Bai Chunli)中国科学院院長及びバイド(Tadej Bajd)スロベニア科学芸術院院長と会談した。同大統領は、中国の科学分野で最高位の代表を迎えることは喜ばしいとして、留学生の交換拡大を呼びかけた。また、同大統領は、スロベニアと中国は友好国であり、今回の会談は、スロベニアがハイテク分野で中国との協力を行っていきたいという意思があることを示していると述べた。両国の院長は、カルスト地形の調査、生化学及び研究者の交流を含む、今後の学術協力の計画を大統領に提出した。

● 開発大臣、国連持続的開発ハイレベルフォーラムに出席【17日】

スメルコル開発・戦略事業・結束担当大臣は、ニューヨークにて7月10日から18日まで開催されている国連の持続的開発ハイレベルフォーラムに出席し、スロベニアの2030アジェンダの実施状況について発表し、特にスロベニアが、革新的な、かつ責任ある経済の構築を目指していると述べた。また、持続可能な発展を達成するには、国際レベルでの社会における、さらなる協力と包容力(inclusion)が必要だと強調した。

● ロシア兵捕虜追悼式典の開催【30日】

30日、ヴルシッチ峠に位置するロシア礼拝堂にてロシア兵捕虜追悼式典が執り行われた。同式典の基調スピーチにおいて、ニキフォロフ・ロシア通信メディア大臣は、

「ロシア礼拝堂は、戦争と平和に対する意識が薄い者や、二国間の友好協力関係を低下させようとする者に対して、両国間の深い信頼と友情を思い起こさせる象徴である」と述べた。また、エリヤヴェツ外務大臣は、「ロシア兵捕虜の過酷な苦しみは、両国間の人々の相互に尊重する心を生んだ。今日、我々は、国際的な平和の実現のため、国家間の強い協力関係を求められおり、特に超大国との協力を取り入れることが重要である」と強調した。本式典には約700名が集まり、パホル大統領のほか、ベルヴァル国民評議会(上院)議長、閣僚数名、ロシア及びスロベニアの議会議員等が出席した。

●スロベニア・クロアチア国境画定問題:常設仲裁裁判所(PCA)による最終裁定後の動き【1日~】

○ピラン湾での動き:

1日、スロベニア警察は、ピラン湾においてクロアチア人の漁船がスロベニア警察の管轄内の海域に侵入した事案が2件発生したと発表した。他方、クロアチア外務省も、同日にスロベニア警察が3回ピラン湾の中点ライン(median line)を超えた事案が発生したと発表した。ツェラル首相は、同事件を受け、クロアチア側がスロベニア側に対して主権侵害を控えるよう要請する旨の口上書を送付したことに関し、「スロベニア警察はこれまでとは異なる対応をするような指示は受けておらず、スロベニアの管理下にある海域に止まり、権限の範囲内で行動したのみだ」と述べた。

プレンコビッチ・クロアチア首相は、「最も重要なメッセージは、引き続き二国間協議が手段として維持されるべきであるということである」との立場を表明した。

○国内の動き:

1日から3日にかけてツェラル首相は、対象地域を訪問し、住民が現在持つ権利が保障されるよう、法の改正等の支援を施す旨表明すると共に、挑発行為を控えるよう要請。5日、パホル大統領、ツェラル首相、両院議長及び全政党党首による会合が開催され、履行プロセスに際し、断固とした姿勢で臨みつつも、慎重に進めるべきだとの意見で一致。その後、6日、政府は、省庁間調整タスクフォースを設置。同タスクフォースは、具体的措置の立案、地域住民との直接的なコミュニケーション、個別問題への対応の調整等を行う。

28日、スロベニア政府は、最終裁定の履行に向けた準備として、前週に新しい地図を作成するタスクフォースを設置し、同地図が本年8月末までに作成される予定であると発表。また、ワーキンググループによる国境近くの対象地元住民への聞き取り調査はほぼ完了して

おり、同住民の税制・年金・教育・労働及び補助金等へのアクセスについては、大部分が現行法により対応可能だが、残りの部分に関しては、特別法の整備もしくはクロアチア側との対話が必要としている。同法案は、9月には国民議会に提出され、年末には承認される必要がある。なお、クロアチア側に住むスロベニア人の対象住民は、移住を希望しているが、政府としては、住民の移転は最終手段として捉えている。

○二国間の動き:

6月30日、パホル大統領は、ドゥブロブニクにおいて開催されたSEECF首脳会談のマージンにおいてグラバル＝キタロビッチ・クロアチア大統領と会談し、常設仲裁裁判所による国境線画定にかかる最終裁定の履行等につき意見交換を行った。両者は、最終裁定の遵守を巡る両国の立場に変更がないことに鑑み、両国が、対話、相互信頼を強化していくことが一層重要になってくるとの認識で一致した。12日、ツェラル首相は、プレンコビッチ・クロアチア首相と会談し、最終裁定の履行を要請した。これに対し、プレンコビッチ首相は、「仲裁プロセスは不可逆的に汚染された」と履行を拒否する一方で、政治家、専門家及び外交レベルで二国間協議を行う用意があるとの立場を表明した。

○欧州委員会の反応:

4日、欧州委は、スロベニア・クロアチア間国境確定問題に関する常設仲裁裁判所(PCA)の最終裁定を両国が遵守すべきだとの立場を表明した。また、欧州委法務部は、EUが仲裁裁定の履行に際し管轄権を有するとの見解を表明。

また、21日、エリヤヴェツ外相は、クロアチア側が最終裁定の発表後52回もスロベニア領海を侵犯したことにつき、ティーマンス欧州委員会筆頭副委員長に対し、抗議書簡を送付。26日、同抗議書簡に関し、アンドレーバ(Mina Andreeva)欧州委員会スポークスパーソンは、7月4日に発表されたティーマンス副委員長の立場を改めて強調し、欧州委が、両国に対して6月に発表されたPCAの最終裁定を履行することを期待すると述べた。

○各国の反応:

6日、フランス政府は「最終裁定が尊重され、本件問題が、平和的に、対話を通じて完全に解決されることを期待する」との立場を表明した。

8日、NATOは「最終裁定につきコメントはなく、スロベニア及びクロアチア当局に照会すべきである」として中立の立場を表明した。

11日、シーヤールト・ハンガリー外相は「国際法及び国際仲裁の結果を尊重することの重要性」を強調。

12日、メルケル独首相は最終裁定の履行を支持。
ジョンソン英外相は、二国間の仲裁合意の尊重を支持。

12日、アルファノー・イタリア外相は「これまでと同様に、両国に対し、対話を実施するよう奨励する」との立場を表明。

18日、ベレン・オーストリア大統領はオーストリアの立場は中立であるとして、国際法及最終裁定の履行尊重には言及せず、両国に対し問題の解決を促した。

25日、駐スロベニア・ロシア大使は、「最終裁定は恐らく尊重される必要があるものであろう」旨発言し、31日、ニキフォオロ・ロシア通信メディア大臣は、国際法の尊重という観点からの最終裁定の履行を主張し、「ロシアは、これまでも国際法を一環して履行することを提唱してきた。紛争にある二国間は率直かつ誠実な対話を継続することが不可欠」と述べ、スロベニアに対して、二国間対話を決して断絶しないよう助言した。

(当館注:PCAによる最終裁定の概要は、マンスリー6月号掲載)

経済

【マクロ経済・統計】

●国家予算前期、約6千万ユーロの黒字【14日】

14日、スロベニア財務省は、今年前期において、歳入45.5億ユーロ、歳出44.9億ユーロであり、6530万ユーロの黒字を記録したと発表した。昨年同時期は、3.9億ユーロの赤字を記録。なお、税収入は、昨年同時期比7.9%の増加(38.7億ユーロ)であった一方で、歳出は1.6%の減少を記録した。(当館注:2017年予算は、歳入88億ユーロ、歳出95億ユーロ。)

●スロベニアのICT職、32,100人【18日】

18日、ユーロスタットが発表した報告書によると、2016年、スロベニアにおけるICT関連の従業員は32,100人を記録し、全従業員人数の3.5%であり、EUの平均値3.7%を下回った。デジタル事業の発展に伴い、2011年よりEU圏におけるICT専門家が増加しており、2016年EU全体で820万人の専門家が雇用されていた。他方、ユーロスタットによると、EU加盟国の中には、ICT要員が不足している国があり、スロベニアは、ICT従業員を雇うことが困難であった企業の割合が全体の63%とEU内で2番目に高かった(1位は、チェコ、3位はルクセンブルク、4位はオーストリア)。なお、EU圏内のICT従業員の約半数は、イギリス、ドイツ及びフラン

ス出身であった。

●貨物車両対象の電子料金所整備計画【19日】

19日、欧州投資銀行(EIB)は、スロベニア国有高速道路管理会社(DARS)の電子料金所システム整備計画に対する5100万ユーロの融資を承認した。本計画は、総額1億500万ユーロ、貨物車両を対象としており、総長610kmの高速道路(motorway and expressway)において、料金所を設置し、電子徴収システムを導入予定である。同電子システムでは、車両の分類及び排気量により料金が決定され、集中統合システム及びそのネットワークにより、顧客サービスを提供したり、不正の発覚・取締りなどを管理することが可能となる。同計画により、貨物車両の待ち時間の短縮等の効果が見込まれる。



●2018年予算、追加発表【20日】

20日、スロベニア政府は、2018年の追加(補正)予算にかかるガイドライン及び2019年の予算案を発表し、科学、医療、国防、及び警察において、予算を増加する旨明らかにした。ツェラル首相は、経済発展を牽引する科学分野においては、すでに本年度の予算を増強するよう政府が努めていると述べた上で、医療改革及び待ち時間短縮等のために医療費の増加が優先事項であると述べた。保健省に対する予算は、本年の約9400万ユーロから、来年は約1億6600万ユーロへと増額される。また、軍隊の環境が悪化していることを受けて、追加予算は主に軍の近代化及び能力強化等に充てられる。なお、2018年の予算総額は96億2500万ユーロ、2019年は96億9700万ユーロが計画されている。

●2016年住宅事情【22日】

22日、デロイト社が発表したスロベニアの住宅事情に関する調査報告によると、2016年のスロベニアにおける住宅価格は1平方メートルあたり2,150ユーロ、リュブリャナ市の価格は、1平方メートルあたり2,660ユー

口を記録した。スロベニアの価格は、オランダやベルギーと同程度であり、またリュブリャナ市の価格は、ポルトガルのリスボン市やベルギーのヘント市と同様。スロベニアにおいて、約70平方メートルの標準的なアパートを購入するために必要な給与額は、12年分と比較的高く、チェコの15年、イギリスが14年に次いで、3番目に高い。他方、住宅ローンが可処分所得に占める割合は、調査対象国の中で最も低く、23.8%。なお、賃貸の住宅に住む世帯の割合は2.4%(公共住宅を含むと8%)と調査対象国の中で最も低かった。

● EU 開発目標達成の進捗【22日】

22日、EU 統計局の「ユーロスタット」の報告書によると、スロベニアは EU の中長期戦略「欧州2020」に基づいた開発目標の達成に向けて順調に進捗しており、一部の目標を既に達成している。特に、1990年から2015年までに温室効果ガスを11.6%削減しており、2020年までの目標はすでに達成済み。教育分野では、30歳から34歳までの人口の44.2%が中等後教育(すなわち高等教育)の課程を修了しており、目標を達成済み。研究開発(R&D)への支出は、EU の平均を上回っており、エネルギー効率や再生可能エネルギー分野においても目標を達成済み。雇用率は、目標の75%に対して、70.1%を記録。他方、貧困削減の目標は達成からほど遠く、2008年から2015年までに貧困リスクにある人数は、24000人増加しており、今後2020年までに64000人の削減が求められる。

● OECDによる開発協力レビュー【27日】

27日、経済協力開発機構(OECD)は、初めての対スロベニア開発協力ピアレビューを実施し、同国の西バルカンにおける協力事業を高く評価する一方で、今後は他の地域への協力を強化するよう提言した。スロベニアは、2005年に開発協力事業を開始し、2013年にDAC開発援助委員会のメンバーとなった。同レビュー報告によると、スロベニアは、主に近年の難民受入れ事業等により支援額が増加しており、2015年の支援先トップ5は、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニア、モンテネグロ、セルビア及びコソボであった。最貧困国への支援額は全体の15.1%にとどまり、平均の28.4%を下回った。なお、2016年の二国間支援額は、GNPの0.18%である6800万ユーロを記録した。

● 英国商工会議所のディベート開催【27日】

27日、スロベニア英国商工会議所は、同商工会議

所が実施したディベート内容を基に、英国のEU離脱に関する提言を発表した。その中で、「6月の英国総選挙で、メイ首相が過半数を得られなかったことから、ソフトなEU離脱となる可能性が高くなり、ビジネス界にとってはより受け入れやすい状況となっている」と述べ、その場合、英国が、共同の欧州市場及び関税同盟に残り、人、物、サービス及び資本の動きの自由が維持される。英国で操業するスロベニア企業にとっては、EU離脱による新たな規制や手続の障害が導入され、コスト高となり、競争力が失われることなどが懸念事項である。そのため、スロベニア英国商工会議所としては、英国とスロベニアとの間の交渉において、上記のような企業の実際の懸念事項について協議され、BREXITにより、スロベニア企業の英国進出促進の機会が与えられるようなものとなることを期待すると述べた。

● 観光業、2017年前期も好調【31日】

31日、統計局の発表によると、2017年前期のスロベニア国内外からの観光客数は193万9000人を記録、前年同時期比15.1%増加となった。特に、外国人の到着人数は32%増加し、約130万人を記録。延べ宿泊人数においても479万5000人であり、前年同時期比12.2%増加した。

フレン(Karmen Hren)スロベニア統計局副局長は、過去最高の前半期記録を踏まえて、今年も新記録を達成する見込みであると述べた。また、欧州以外からの観光客も急増しており、特に中国人は前年同時期比50%、韓国人は41%増加した。さらに、統計局は、メラニア・トランプ大統領夫人効果として、米国大統領選運動が開始されて以降、米国からの観光客は15%増加していると発表。なお、外国人観光客の大多数は、親戚や友人からの推薦がスロベニア訪問のきっかけと回答しており、大多数がスロベニアでの滞在に満足、約半分は、期待していた以上に良かったと回答している。

スロベニアに迫る！

リュブリャナのレンタル自転車
「Bicikelj」



スロベニアの首都、リュブリャナ市内の所々で見かける整然と並んだ自転車たち。これは、ビツィケル(「Bicikelj」、英語の自転車「bicycle」とリュ

ブリャナ「Ljubljana」の頭2文字を掛けた名称）と呼ばれる市内レンタル自転車です。2017年現在、市内には、ステーション51か所、自転車510台が設置されており、2016年には66万7000回、毎日平均1800回以上の使用回数を記録していて、使用者の93%が満足していると報告されるなど、在住者からも観光客からも人気の高いサービスとなっています。

その人気の理由として挙げられるのは、使い勝手の良さです。街中の主なショッピングエリアや住宅街に約300メートルから500メートルの間隔でステーションが設けられており、自分の出発地点の近くで自転車を借りて、目的地の近くで自転車を置いていくことができる手軽さがあります。年中無休、日夜問わず、ステーションに設置された端末にプリペイドカード「Urbana」をかざすだけで借りることができるのも利点です。さらに、年間登録料3ユーロ（もしくは週間登録料1ユーロ）で、何回でもレンタルができるだけでなく、使用する初めの1時間は無料、2時間目は1ユーロ等、低価格さも魅力です。

最後に、ビツィケルが環境に優しいサービスであることも人気の大きな要因と考えられます。リュブリャナ市は、2016年に欧州グリーン首都賞を受賞しており、その理由の一つに自転車文化があります。無論、レンタル自転車だけでなく、公園や主要道路には自転車道が整備されており、サイクリストに優しい環境が整っています。

さて、2011年に開始されたビツィケルのシステムを開発したのは、リュブリャナ市と官民連携においてコンセッション契約を締結した「Europlakat」社です。「Europlakat」社の親会社であるフランスの広告代理店「JCDcaux」社は、ビツィケル同様の都市用レンタル自転車システムを30都市で導入済みです。同システムでは、「Europlakat」社がシステムを調達、運営及び維持管理を実施する一方、リュブリャナ市は同社に市内360か所の公共広告ロケーションをリースします。

今年3月に市内ステーションが13か所追加されたビツィケル。今後のサービス拡大が期待されます。



【金融・企業関係】

●スロベニア化学研究所、ホンダ社と契約【4日】

4日、スロベニア化学研究所は、6月に日本の大手自動車メーカーのホンダ社と、マグネシウム電池の開発にかかる契約を2件締結していた旨発表した。スロベニア化学研究所のドミンコ(Robert Dominko)氏によると、現在

EU 基金プロジェクトの一環として、学術研究機関7機関が、フランスの自動車及びバッテリーメーカーとの共同でリチウム硫黄電池を開発しているが、リチウム資源はアクセスが難しく、世界での分布も不均等である一方、その代替品であるマグネシウムには同様の問題がないのが特長である。2013年以来、スロベニア化学研究所とホンダ社は協力関係にあり、今回は、ホンダ・ドイツ支社の財政バックアップのもと、今後2年間で商品化が可能なマグネシウム電池の試作品を開発する。

●コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設経費に関する法案をめぐる動き【14日、21日】

14日、スロベニア政府は、EUの Connecting Europe 基金に対し、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設費用として、2023年迄で1億6350万ユーロの拠出を申請した。レーベン・インフラ省副大臣は、本申請につき、「他のEU諸国や金融機関からの支援もあり、拠出は承認されるであろう」と述べた。本件基金への申請に際しては、ハンガリー、スペイン、オーストリア、ポーランド、チェコ及びスロバキアが書簡で支持を表明している。

21日、憲法裁判所は、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設法の履行の是非を問う住民投票を9月24日に実施することで問題なしとの判断を下した。

社会・文化・スポーツ

●ブナの森林が世界自然遺産に登録【7日】

7日、ポーランドのクラクフで開かれた、ユネスコ世界遺産委員会による“63カ所の新しいブナ林の自然保護区域を追加する会合”において、スロベニアのブナの森林2カ所が世界自然遺産に登録された。登録されたのは、コチェウイェ(Kočev je)市南部の森林の真ん中に位置する、クロカル(Krokar)原生林保護地域、及び、スネジュニク山の南西に位置する森林保護区域のスネジュニク-ジドロツレ(Snežnik-Ždročle)である。なお、スロベニアにおける世界自然遺産は、スロベニア南部のシュコツィアン洞窟群(Škocjanske jame)に次ぎ、今回のブナ森林が2か所目となる。また、世界文化遺産として、スロベニアでは、アルプス山脈周辺の先史時代の杭上住居群、及び水銀の遺産アルマデンとイドリヤの2か所が登録されている。



●欧州カヌー選手権、メダル獲得【16日】

16日、ブルガリアのプロヴディフ(Plovdiv)市で開催された欧州カヌー選手権(European Still Water Canoe Championship)でスロベニア人選手が2つのメダルを獲得した。ヤニチ(Špela Ponomarenko Janić)選手とオステルマン(Anja Osterman)選手はカヤックペア500mで銀メダル、ヤニチ選手はカヤックシングル200m種目で銅メダルを獲得した。ヤニチ選手は今回の入賞で7つ目のメダル獲得となり、同選手はリオ・オリンピックでも4位入賞を果たした。

●社会進歩指標2017【17日】

17日、米国の非営利団体「Social Progress Imperative」及びコンサルタント会社デロイトが発表した社会進歩指標(Social Progress Index)の2017年版で、スロベニアは128か国中21位、中欧・南東欧地域では、トップを記録した。同指標は、主に「人間の基本的ニーズ」、「幸福の基盤」及び「機会」の観点から社会進歩を計る50の指標を集計したもの。スロベニアは、栄養や水衛生環境等の基本的ニーズ、及び個人の安全等の分野で好成績であったが、個人の自由及び機会等において点数が低く、高い自殺率が課題であると示唆された。上位3位は、デンマーク、フィンランド、アイスランド、日本は17位。

●「Liquid Matter 会議」の開催【21日】

17日から21日にかけて、第10回「Liquid Matter(液状物質)会議」が開催された。本会議は、液状物質に関する研究発表の場として3年に一度開催される世界的な会議であり、今年はヨゼフ・ステファン研究所及びリュブリャナ大学が共催し、世界各国の主要研究機関から約600名の専門家が参加した。なお、本会議で授与されるリキッド研究の最高権威の賞は、イスラエルのワイズマン科学研究所のクライン(Prof. Jacob Klein)教授に授与された。(当館注:25以上の日本の大学・研究機関から、日本人約40名を含む60名以上の研究者が出席。)

●ユーロビジョン・コーラスで1位【23日】

23日、ラトビアで開催された2017年ユーロビジョン・コーラス(Eurovision Choir of 2017)に、欧州放送連合(the European Broadcasting Union/EBU)9カ国から合唱団が参加し、スロベニアの女性合唱団「カルメン・マネット(Carmen Manet)」が1位に表彰された。同グループは、クラン高校(Gimnazija of Kranj)の女子学生合唱団であり、2011年に結成されて以降これまでも国際コンペティションで受賞。2013年には、初のCDをリリースした。



(Photo: Reinis Rudzitis/EBU)

●ツールド・フランス第17ステージで1位【24日】

スロベニア人サイクリスト、プリモシュ・ログリッチ(Primož Roglič)選手が、2017年ツールド・フランスに出場し、183Kmの第17ステージ(ラ・ミュールからセール・ジュヴァリエ)で1位を獲得した。同レースでこれまで1位を獲得したスロベニア人選手はおらず、ログリッチ選手はスロベニア人として初の快挙を成し遂げた。

●不発弾処理【25日】

19日、スロベニア北東部に位置するブルベルク村(Vurberk)の住民が、第二次世界大戦中の250キロ爆弾を発見して自宅に持ち帰り、25日、付近住民約100人を避難させ、不発弾処理が行われた。

●Nikon 写真コンテスト2位【27日】

世界で歴史のある写真コンテストの一つであり、また、今年は創立100周年を記念する Nikon 写真コンテストで、スロベニア人のカティア・ビドヴェツ(Katja Bidovec)写真家の作品が、170カ国からの76,000以上の作品の中、「Nikon 創立100周年部門」で2位に選ばれた。作品は、スリランカにあるウエヘラヘナ寺の参詣者と大仏の大きな足を鳥の視線から撮影したもの。



(Photo: Katja Bidovec)

● 3人制バスケットワールドツアー、準優勝【30日】

29日から30日にかけて、宇都宮市にて開催された「2017 FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Masters」に、スロベニアから、ピラン及びリュブリャナの2チームが参加し、ピランチームが準優勝した。なお、優勝はノヴィサド・アルワダ(アラブ首長国連邦)。



(Photo: FIBA)



1. Grefino

(Cankarjeva cesta 1)

自分だけのアイスクリーム

人気のアイスは、ギリシャヨーグルト。カップ/ワッフルコーンに、お好みのアイスとトッピングを好きなだけ盛り付けて、自分好みのアイスクリームを作れます！（100g=1.80ユーロ）



2. Zvezda

(Wolfova ulica 14)

自然食材のアイス

人気のアイスは、バニラ、チョコ、クッキー。自然食材を使用、季節ごとの旬のフルーツ100%のアイスは特にフレッシュな味わい。イタリアのアイス業界とも繋がりがあつたシェフが創り出す本場仕込の味です！



3. Gelateria

Romantika (Dvorni trg 1)

抹茶アイスならここ

人気のアイスは、季節のシャーベット。毎日違う種類のジェラートを提供。抹茶、ポティツァ（スロベニアの伝統的な焼菓子）、塩キャラメルなどユニークな種類が味わえます。また愛犬用のジェラートも！

夏特集！

リュブリャナ市のアイスクリームマップ



7. Ice Wave

(Trubarjeva cesta 7)

冷鉄板のフレッシュアイス！

好みのMixing（アイスになる味）とToppingを選ぶと、目の前で、冷えた鉄板の上でミルクと一緒に混ぜ合わせてアイスを作ってくれます！ Mixingはフルーツ9種類やチョコ、チョコレートなど20種類あります。



4. Feticne

(Cankarjevo nabrežje 25)

黒ゴマ、ジンジャーも！

人気のアイスは、マンゴー、チョコ（ココナッツオイル入り）。黒ごまやジンジャー（ミルク入り）といっためずらしい種類のアイスクリームがあります。Gast Expo 2016（リュブリャナの食フェア）で受賞！



5. Vigò

(Mačkova ulica 2)

リュブリャナ No. 1

人気のアイスは、Vigo（マスカルポーネ、チョコ、ヘーゼルナッツ入り）！リュブリャナ市で1番有名なアイス店。今年のLjubljana Quality Mark 2017（品質、サービスの価格等が評価）に選出。



6. Cacao

(Petkovškovo nabrežje 3)

全40種類、ヴィーガンも

人気のアイスは、ピーナツクリーム。アイスの種類が全40種類と豊富な品揃え！そのうち30種類のアイスがグルテンフリー、その他にもラクトーゼ・シュガーフリー、ヴィーガンのアイスがあります。

発見！スロベニア

スロベニアでの登山(Hiking in Slovenia)第2弾

自然豊かなスロベニアには、全長 10,000km のハイキング・コースがあり、毎年、特に6月以降、夏から秋にかけて子供から年配の方まで元気よく登山する姿がみられます。今回は、ブレッド湖から西の方向約 15km に位置するヴィシェウニク山 (Viševnik、標高 2,050m) のコースとともに、スロベニアの登山の楽しみ方をご紹介します。

ヴィシェウニク山は、「スロベニアの登山」第1弾で紹介したデベラ・ペチ同様、トリグラウ国立公園内に位置する標高 2050m の山で、今回ご紹介するコースはルドノ・ポリエ (Rudno polje) の駐車場付近から始まる約6時間の中級者向けです。見所の一つは、険しい山道を上りはじめてから 1 時間ほどの地点から見える雄大な景色。遠くまで見える山々の姿は、疲れを吹き飛ばしてくれます。そして、足下に咲く高山植物も花畑のように広がっていて、彩りを添えてくれます。



スロベニアの登山コースには、スタート地点や十字路などに赤い道標があり、到着地点までのおおよその所要時間が記されているだけでなく、スロベニア人の登山家 Alojz Knafelc 氏が発明したクナフェルク目印が岩や木の幹などに描かれているのが特徴です。赤と白の鮮やかなクナフェルク印は、初めての登山者にも安心感を与えてくれます。

また、スロベニア人は、登山用のストック(トレッキングポール)を持っていることが多いです。ストックを持つことにより、山道でバランスを保つことができ、上り坂では足への負担を、下山時も膝への負担を和らげてくれます。中級コースだと、岩をよじ登ったりする箇所もあるため、ストックが邪魔になる場合もありますが、若者や子供達でもストックを使っている姿が見られました。



そして、登山開始から2時間ほどで到着した山頂からは、スロベニアで最も高い標高のトリグラウ山 (Triglav, 2864m) を望むことができました！



山頂からは、また別のルートを使って、2時間ほど山道を通ってたどり着いた Blejska koča という名の山小屋で昼食を取りました。野菜と牛肉の具沢山スープや、ソーセージ、ポテイツァなどを食べて、体力回復です。

最後の2時間は、主に林の中を下り、キノコ狩りをする地元の人々に出会いました。



登山の途中の疲れている時、見知らぬ人でも、すれ違ったり、追い越したりする際は、お互いに「Dober dan! (こんにちは)」と挨拶を交わして、道を譲り合うスロベニア人。また、ひとつスロベニアの良さを発見しました。

(スロベニア・マンスリーでの第1回登山特集は、2016年7月号に掲載。参考:スロベニア観光局による最新のパンフレット:
https://www.slovenia.info/uploads/publikacije/en/POHODNISTVO_2016_ANG_pub.pdf)

在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。4月号では熊本県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【広報文化班からのお知らせ】

●テレビ岩手制作「夢見るピノキオ」放映開始(全100話)

美しい映像とともに東北地方・岩手県の様々な自然・文化・食・旅を紹介する番組です。なお、岩手県の他にも、山形県などの他地域も登場します。

○放映チャンネル: RTV SLO 1

○放映日時: 平日(月～金)午後12:25より30分(1話ずつ放映)※初回放送: 8月1日(火)午後12:30より

再放送: RTV SLO 2にて週末の土曜に2話、日曜に3話ずつ放映予定

番組表: <http://4d.rtvsls.si/spored-4d/>

●「濱野&RYU」スロベニア展

クラン市立美術館において、濱野年宏画伯により選考された美術団体 RYU に属するベテランから若手までの芸術家の作品約70点が展示されます。濱野画伯と美術団体 RYU は、これまで30年以上に亘って、日本とスロベニアとの様々な文化交流に貢献されてきました。

○会期: 9月5日(火)～10月2日(月) ※初日は午後19:00よりオープニングセレモニーが開催されます。

○場所: Gorenjski Muzej (住所: Glavni trg 4, Kranj)

主催: 公益財団法人メセナかがわ・濱野年宏芸術交流協会、後援: 在スロベニア日本国大使館

●世界マスターズ・レガッタ2017

9月初めにブレッド湖で開催される世界マスターズ・レガッタ2017に、日本からボートクラブ11チームが参加予定です。是非、応援しに行ってみてはいかがでしょうか？

○期間: 9月6日(水)～10日(日)

○会場: ブレッド湖(湖の西側がゴール付近)

詳細は大会公式ホームページにて: <http://www.wrmr2017.com/>

●「武士道」展

日本の「武士道」に迫る展示会。スロベニア国立博物館所蔵の甲冑や刀剣類に加え、普段見ることが出来ない個人コレクションの関連作品も展示されています。スロベニア国立博物館メテルコヴァ分館(住所: Maistrova ulica 1, 1000 Ljubljana)にて、11月5日(日)まで開催中。有料(第一日曜は無料)。

●ゴラズド・ヴィルハル写真展「日本の伝統にみられる精神の中で ～祭り～」

日本文化をテーマにした写真を撮り続けているゴラズド・ヴィルハル(Gorazd Vilhar)氏の写真展。日本の伝統的な精神を感じることができる「祭り」がテーマになっています。スロベニア民俗学博物館(住所:Metelkova ulica 2, 1000 Ljubljana)にて、9月8日(金)まで開催中。有料。

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

たびレジには「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●すり被害が多発しています！

最近、リュブリャナ中心部にて、日本人観光客のすり被害が非常に多く発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ鉄道駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、リュブリャナ以外では、ブレッド城でも被害の発生がありました。

貴重品は背負ったカバンには絶対に入れず、異変を感じたらすぐに確認してください。